



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No. 14

2009.10.14 (No.2565)

第2560地区ガバナー／植木 康之
 会 長／菊池 渉
 会長エレクト／樺山 仁(クラブ奉仕A)
 副 会 長／山田 富義(クラブ奉仕B)
 幹 事／松永 一義
 S A A／成田 秀雄
 会 計／石月 良典

例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (〃はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押ししてください)

■本日の出席会員数:55名中31名
 ■先々週出席率:88.68%

【先週のメイクアップ】
 [10.13] 三條北RCへ
 ・斎藤弘文さん



「ロータリーの未来は、
あなたの手の中に」

2009～2010年度国際ロータリーのテーマ

季節の果樹 (さんふじ)



会長エレクト挨拶

樺山 仁 会長エレクト

あなたの



今日はピンチヒッターでご挨拶致します。
 今日は遠い昔と言われる「青春」という
 ことについてお話しします。

アメリカの詩人、サミュエル・ウルマン
 (1840～1924)という方の有名な詩「青春」は、
 次の様に青春を定義しております。

青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。優れた創造力、炎ゆる情熱、冒険心など、こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけでは人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。

歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や狐疑、不安、恐怖、失望、このようなものが人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。

大地より、神より、人より、美と喜び、勇気と壮大、偉力の靈感を受ける限り、人の若さは失われない…。

このような定義をされているが、我々は日常生活を送る時、理想を追い続けて行く事がだんだん出来にくくなる訳で、何とか情熱の火を、創造力の力を、冒険心の心を、絶やす事のない様にしたいものです。

今日は「青春」と言う事にこだわってみました。

幹事報告

松永一義 幹事

◎次週は親睦旅行ですので、ご出席の方はよろしく
お願い致します。欠席の方々は事務局で記帳お願
い致します。

ニコニコBOX

菊池 渉さん

本日の例会、代理の利かない親戚の法事のため欠
席します。

樺山さんよろしく申し上げます。

捧さん、せっかくの卓話聞けずに残念です。次週
の週報を楽しみにしています。

明田川賢一さん

11月4日の落語講演会、多勢の皆さんの参加をお
待ちしています。

浅野金治さん

先週、健康のため万歩計を買いました。

今日、今現在6,509歩です。ガンバります。

若槻八十彦さん

四十年ぶりに中学校の同期会をやりました。

百名集まり盛会でした。

捧会員の卓話、楽しみです。

佐野勝榮さん

先日の連休に、みちのくの百名山 岩手山、草池^{ハヤチノ}
山をいつものメンバー4名にて登って来ました。
台風18号の影響で紅葉が散りましたが、雄大な東
北の山がすばらしいです。

樺山 仁さん

捧会員の卓話を楽しみにしております。

本日は菊池会長のピンチヒッターです。よろしく。

渡辺勝利さん

久し振り、捧会員卓話ありがとうございます。

熊倉昌平さん、 武田眞二さん、 外山雅也さん、
石月良典さん、 荻根澤隆雄さん、 野崎喜一郎さん、
平原信行さん、 松永一義さん、 小越憲泰さん、
川瀬康裕さん、 会田二郎さん、 小出子恵出さん、
杉山幸英さん、 山田富義さん、 五十嵐昭一さん、
成田秀雄さん、 高橋 司さん

捧さん、卓話ご苦勞様です。

楽しみです。

10月14日分 ￥22,000

今年度累計 ￥355,500

卓話

「出会いの運～倉本長治先生～」



捧 賢一 会員

今回プログラム委員会でどう
しても話をせいと何回も言われ
ましたので一回くらいはしなけ
ればだめかなと思いここに上が
った訳ですが、何を話せばいいん
だろうと思っています。

やっぱり自分の過ごしてきた道をお話しするのが
良いかと考え、昔話をちょっとやらせて頂きたいと思っ
ております。

私はよく「運が良い男だな」と言われることがあ
ります。それは私を昔から知っている方が言うこと
が多いわけですし、なぜ運が良いと言われるのか。
ももとは百姓の伴で商売には縁がなかったのです
けれど、現在店数は973店舗になっていて、自分でも
時々、何でこんな商いをするようになったのかなと
思うのです。一つは喜びでもあるのですが、振り返っ
てみて何故なんだろうと不思議な気持ちになること
があるのです。

人の運というのを考えてみると、いかに良い人達
と巡り合ったかが自分の運を活かしていると思っ
ています。商売に入るきっかけは、商業界という団体で、
これは終戦後すぐにできたのですが、倉本長治とい
う先生がおられまして商人道を一生懸命説いておら
れました。

その頃私は加茂農林高校を出まして百姓をやっ
ていたのです。親父は勉強など必要ないから高校には
行かなくてもよいと言っていたのですが、中学校の
恩師の海藤先生が家に来てくれまして高校くらい入
れてやったらどうかと父を説得してくれ、定時制に
行けるようになりました。その頃の私は世の中に対
して大分不満がたまっていました。同級生は高校か
ら大学に進学した人もたくさんいる訳ですが、私は
百姓の伴だから「田んぼに入れ」と言われて、うまれ
た家が違うところも境遇が違うものかと反感を持っ
ていたのです。私が出た定時制は、夜ではなく昼間
に通学する定時制で、農繁期の忙しい時ではないお
盆や冬休みに学校に通い、忙しい時は行かずに3年を
4年間にして単位を取り卒業したわけです。

その時九州大学を出た新任の先生で政治経済を教
えていた方が非常に革新的な考えで教育に取り組ん
でいまして、私も影響を受けて高校を卒業後、歌声
運動に参加したわけです。当時長岡に国鉄の労働組
合があり、そこから来た人がいろいろな歌を教えて

くれ、新潟大学の学生さんもいて活動していました。そのうちに私に三条の責任者になれと言われました。それからは電柱にビラを貼ったり教育委員会で会場を借りるなどの活動をしました。そんな事をしていて私が一番嫌いだったのは商いで、それは外から見ていると金儲けのためにやっている仕事に思えてならなかったからです。男子一生の仕事は何か？と思っ
てはいたのですが、生まれた家が百姓で俵だったので田んぼに出て仕事をする。その田んぼの隣が女学校だったので中学の同級生達が脇を通っていくのです。あの頃は肥料が無かったものですから人糞を使っていて、それが恥ずかしくもあり、情けなくもありました。それを3年から4年やっていたでしようか。歌声運動もカップコーラスと名前をつけて続けてい
ましたが、女房を貰っても家の仕事もしないで飛んで出てばかりいました。そんな事をやっているうちに女房に泣かれお袋に泣かれて、こんな事もしてい
られないのかなと思っていた時に本屋で立ち読みして見た本が「商業界」で、そこに倉本長治という先生が巻頭言を書いておられました。そこには「みんな一生懸命に働いて得たお金を持って店に来られる。その人たちにいかに安くていいものを親切にお売りするか。商人の仕事は聖職だ」とありました。

聖職とは最も尊い仕事だと書いてあるのを読んだときに、ハッと思いました。仕事もしないで飛んで歩いてばかりいたのが違うと思ひ知らされました。当時は闇物資が出回り大変混乱していたものですから、先生は商人道をなんとかしなければだめだと商いについての精神論を説かれていました。

商業界は新潟大学の川崎進一先生という偉い方が補佐されていて、全国からその精神に則った30人位の講師がおられました。日本の商業関係を近代化しようとして研究していた人たちが中心となって、箱根の湯本で一年に一回のセミナーを開き、多い時には2千人もの商業者が全国から集まっていました。そこに出て驚いたのはイトーヨーカ堂の伊藤雅俊さん、イオンの岡田卓也さん、ダイエーの中内功さん、長崎屋の岩田孝八さん、ニチイの西端行雄さん。こういう人たちが全部揃っておられました。各地区でも活動していて新潟では大阪屋さんの社長さんがやっておられましたし、後に長岡市長をされた内山由蔵さん等が中心になってこれからの小売業をどうするかを熱心に勉強しておられました。

このセミナーに行ってから、それまで親父に逆らっていたのですがよしやろうと思ひやりだしたのが商いでした。それから倉本先生の話はよく聞きました。また縁あって川崎進一先生にはジャスコの監査役を

降りられた後に私はお願いしてコメリの監査役に就任して頂きました。私がここまで来られたのは、素晴らしい方との出会いの運なのです。どういう人に出会うか、そのことが自分の運を開いているのです。私の商業での最高の師は倉本長治先生です。倉本先生が書かれた全集の中に「商人の心の書」というものがありまして、その1巻にはキリスト、それから釈迦、孔子、孫子の兵法などの事が書かれてあり7巻までありました。この方は宗教家なのかもしれません。

倉本先生とお会いして間もなく、昭和47年に先生が出雲崎に来られました。来られたのは、やはり商業界で指導され早くに亡くなられた出雲崎出身の新保民八という方の胸像の除幕式でした。この新保先生は有名な言葉を残していかれたのです。その言葉は「正しきによりて滅ぶるものあらば滅びても良し。断じて滅びず」です。この方は演壇で血を吐いて倒れ亡くなられたと聞いていますが、残念ながら私は講演を聞く機会がありませんでした。

その時に、出雲崎といえば良寛さんですが、倉本先生は良寛さんに関する話をしていられました。その時に色紙に書いて頂いた言葉が、

むいちぶつむじんぞう
無一物無尽蔵

禅の言葉でして「無一物無尽蔵」の境地というのは、「何もないということは、限りないものが無尽蔵にある」ということです。何ものにも執着しない境地に達すると大いなる世界が開けると話しておられたのです。ですから欲を出すとだめなのです。「私が」という言葉が出てくると、大体間違いが起きます。天地自然の中で私どもがいただいた命があり、その命を大事にしながら、お世話になった人たちに感謝をすることが大事だということです。

この色紙は私の大切な宝物で、書齋に飾っています。そして先生の言葉を大事にしながら、悩んだり迷ったりしたときに「私が」ということではなく、世の中から見るときに正しいかどうかをいつも問うようにしています。

不思議に思う事にあの時代、一番大きなのは百貨店だったのですが、ダイエーの中内さんを筆頭に、イトーヨーカ堂の伊藤さん、イオンの岡田さん、ニチイの西端さんがそれを追い越してみせると頑張っておられ、越えた訳です。アメリカの科学的な商いの手法も見てまわったり、チェーンストア経営をどのようにやるのかと勉強してきたわけですが、その中でも一番大事なものはその精神なんだとしみじみと感じていたわけです。

私は1回だけダイエーの中内さんの講演を聞く機会があったのですが、その時に大勢聞きに来た人の中には競合しているジャスコさんもイトーヨーカ堂さんもおられました。その中で中内さんは演壇に上がられて、最初に話されたことは「これから講演はしますが、私は皆さんのために話をするのでない。ここには岡田さんも伊藤さんも、長崎屋さんもいる。なんで皆さんの前であの手、この手を話さなければだめですか。私は私のために話をするのです。私の会社はこれから日本一の売上と収益を上げることを宣言するのです」と大きな声で演壇の上から周りを見渡しながらかたされまされた。皆さんの前で私はこれをやるのだと約束をしたのです。必ずやると大阪弁で少し早口で話される姿に私は圧倒されました。このセミナーに出席しておられた人たちは、素晴らしい情熱を持って商いの近代化を図っておられたのです。

ダイエーは、ホテルや野球、リゾート開発など小売業でないものに手を出されました。ひと筋にやっておられたらと残念に思うのです。

これからどんどん小売業の世界も変わっていくと思いますが、私は倉本先生から貰った「無一物無尽蔵」の色紙を見ながら間違いのない経営をやっていきたいと思っています。

次週例会 10月28日 「米山月間」

地区米山奨学委員長 箕輪 光泰 様

次々週例会 11月4日 夜例会「三遊亭金時さんを囲んで」

PM6:30～ 於 越前屋ホテル

